

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

長浜市立びわ南小学校

教諭 伊賀並 由貴

1. 単元名 「福祉について考えよう！」

～みんなが幸せに過ごすために、自分にできることを考えよう～

2. 単元の目標

- ・福祉について調べ、体験活動することを通して、福祉の意味や地域の現状、高齢者や障害のある方の思いや願いを理解することができる。 (知識・技能)
- ・身近な人々の幸せについて考え、ボランティア活動を行うことを通して、自分たちのどんな活動で人々を幸せにできるかについて、情報を収集したり、できることを考えたりすることができる。 (思考・判断・表現)
- ・自分にできるボランティア活動について考え、行動することを通して、人の役に立つ喜びを感じ、進んで活動しようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

「福祉」とは、すべての人がかけがえのない人として、差別や排除されることなく社会生活の中でともに支え合い、一人ひとりが生きる喜びを感じる「しあわせ」のことである。子どもたちにとっては、「普段の暮らしの幸せ」という合言葉で覚えられている。児童を取り巻く環境には、様々な人が生活し、すべての人が幸せになりたいと願っている。みんなが幸せな生活をするためには、一人ひとりの違いを認め、相手を理解しようとし、相手のことを考えて接していくことが大切である。これらのことに気づく場として、社会福祉協議会と連携し、高齢者体験・認知症理解・手話体験・車いす体験などの体験を行う。また、最後にボランティア活動の場として、高齢者福祉施設である「老健びわ」に訪問し、ともに活動したり、体験したり、調べたりする活動を通して、幸せについて深く考える場としていく。

(2) 児童観

5年生の児童は、4年生の総合的な学習の時間で福祉の学習を進めてきた。アイマスク体験や点字体験、福祉のマークなどについて考えることで、障害がある方の思いや願いを知ることができた。また、3年生までの学習で、地域の歴史や文化、自然の素晴らしさにふれあうことで、自分たちの住む地域のよさや、地域の人たちに支えられて今の自分たちの暮らしがあることに気づいている。これまでの学習を通して、子どもたちは地域のために、自分たちができることをしたいという思いを持っている。

本校の近くには、福祉施設である「老健びわ」がある。子どもたちは登下校等で見慣れた建物であり、身近な存在である。また、以前より5年生の福祉学習の中で交流を続けてきた。そこで、「老健びわ」の方々にとっての幸せについて考え、ボランティア活動を進めていきたい。

さらに、ご高齢の方との交流を通して、自分たちができることについて考えていきたい。

(3) 指導観

指導に当たっては、次の2点に留意して取り組む。

1点目は、施設の方やご高齢の方と関わることで、みなさんの思いや、自分たちができることについて考えることである。施設の方やご高齢の方の思いを聞く場をもつなどして、思いについて知り、それぞれの立場に立って考えさせたり、自分以外の誰かの視点に立って、物事を見たりする活動を通して、自分たちができることを考えていきたい。

2点目は、自分の考えをキーワードでまとめて、ポスター作りを行うことである。さまざまな体験学習を行う中で、それぞれの場面で感じた思いを細かく記録しておくことで、自分の考えを整理し、まとめることができるようにしていきたい。

(4) ESD との関連

・ 本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

・ 相互性

人は互いに働きかけあい、関わりあっていることに気づく。

・ 連携性

持続可能な社会は、互いに協力して力を合わせることで構成されていることに気づく。

・ 公平性

持続可能な社会は、基本的な権利が守られることなどが、公平・公正・平等であることを基としていることに気づく。

・ 本学習で育てたい ESD の資質・能力

・ つながりを尊重する態度

いろいろな人とのつながりの中で学んだことや知ったことを大切にする。

・ コミュニケーション力

自分の気持ちや考えを伝えるために、相手の気持ちを考えながら、積極的にコミュニケーションをとる。

・ 多面的・総合的に考える力

人や事柄のつながり・関わり・広がりを理解し、それらを多面的・総合的に考えることができる。

・ 本学習で変容を促す ESD の価値観

・ 世代内の公正・幸福感

現世代内でもすべての人が人間らしい幸せな生活ができるように、問題を解決することができる。

- ・達成が期待される SDGs
 - 3 すべての人に健康と福祉を
 - 10 人や国の不平等をなくそう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
① 福祉について調べ、体験活動することを通して、福祉の意味や地域の現状、高齢者や障害のある方の思いや願いを理解している。 ② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵などを用いてそれらに関連付けながらまとめる技能を身に付けている。	① 身近な人々の幸せについて考え、ボランティア活動を行うことを通して、自分たちのどんな活動で人々を幸せにできるかについて、できることを考えている。 ② 障害がある方や、高齢者など学習した方々に対して、みんなで気を付けることを考えている。	① 自分にできるボランティア活動について考え、行うことを通して、人の役に立つ喜びを感じ、進んで活動しようとしている。 ② 老健びわでの活動を通して、幸せに暮らすことができるようにしたいという目的意識を持ち、意欲的に交流したり、発信したりしている。

5. 単元の指導計画

次	主な学習活動	学習への支援	評価 (△) 備考 (・)
1	○福祉とは何か考える。 ・ふだんのくらしのしあわせのことを福祉っていつのか。 ・しあわせって何だろう？	○今までの学習を思い出せるように写真を使って確認する。 ○身の回りの「福祉」について考え、自分のこととして考えることができるようにする。	ア① (知・技)
2	○体験学習を行う。 ○認知症体験学習 ・認知症の人にはこう接していくといんだな。	○実際の当事者の方やよく知る方々に話を聞き、実感を伴ってより詳しく知り、共感することができるようにする。	ア① (知・技)
3	○高齢者体験学習 ・高齢になるとできなくなることが増えるんだな。	○各学習で感じたことをその都度感想として残しておき、後で確認できるようにしておく。全体を通した考えも記入しておく。	
4	○車いす体験学習 ・車いすはだれでも使う可能性があるんだな。	○今後の学習を想定できるように、ゴールを伝えておく。各体験学習の日程も知らせておく。	
5	○手話体験学習		

6	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえない（にくい）って不安だな。 ○老健びわでの学習 ・食事や入浴方法も違うんだな。 ○今までの学習を振り返る。 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ○もう一度、「しあわせ」について考える。 ・みんな幸せになりたいと思っている。老健びわの方々の幸せは、いろいろな人と関わるとのことだと思う。 ・自分たちも何かできないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分たちのこととつなげて考えることで、より共感的な考えがでるようにする。 	イ① (思・判・表)
8	<ul style="list-style-type: none"> ○老健びわでどんな活動ができるのか考える。 ・劇ができる。 ・みんなで作作をしてみたい。 ・クイズ大会をしてみたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な建物である、老健びわでどんなボランティア活動ができるか考える。 ○ボランティア活動とは、どんなものがあげられるのかを事前に簡単に伝えておく。 ○入所の方が楽しめる活動を、入所者の立場に立って考えられるように声掛けする。 	ウ① (主体的)
9	<ul style="list-style-type: none"> ○老健びわでボランティア活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○文字の大きさや声の大きさについて共有しておき、入所の方が分かりやすいという視点で活動を進める。 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の振り返りをする。 ・このような人々はおかしいのではない。助けるべきか考えることが大切。 ・老健びわでの活動で喜んでくれてうれしい。 		イ② (思・判・表)
11	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の高齢者に手紙を送る体験をする。 ・身近なところにも困っている人は大勢いるんだな。 ・返事もらってあたたかい気持ちになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語科単元と関連させて考えることで、内容の質や書きぶりについても意識させ、相手意識を持たせるようにする。 ○今後の活動へとつなげて考えられるように声掛けする。 	ア② (知・技) ウ② (主体的)
12	<ul style="list-style-type: none"> ○活動の振り返りをする。 ・これからもボランティア活動をやってみよう。 ・学校のみならず活動できることがあるかもしれない。 		

